

# NEWSLETTER

英語で geometry という可.

図形や空間を研究する数学の分野可.

No020420

これまでレポートを通じてナンバーオペレーションについて多くのことを伝えてきましたが、それはまだほんの一部にしか過ぎないと言えれば驚かれるかも知れません。しかし、事実、その通りなのです。

ナンバーオペレーションの土台となる数値が開発されたのは 2007 年です。そして、それに続いて同数値構造に基づくバリューチェーンが開発されました。それらが活発に利用されるようになったのは翌 2008 年です。その年、私はニューヨークでチームを結成し今日「ナンバーオペレーション」と呼んでいる実践に取り掛かりました。同時に、数値構造のからくり(数学的・物理学的原理)の謎を紐解いて私のチームのオペレーションの実践に取り入れて実績を積み重ねてきました。

私たちは当初からトライアングルやハンドテーブルを活用していたわけではありません。実践を通じて実績を積み重ねていくうちに幾何学を利用するようになりました。

バリューチェーンも、当初は積極的に利用していませんでした。

バリューチェーンはトライアングル(数値構造)と重ねて見るとナンバーオペレーションに隠れた(表面から見えない)多くのからくりが浮き彫りになってきます。

ITV/OTV はいずれ区別な必要ではないと言えるところまで来るかもしれません。ITV も OTV もトライアングルの中で見れば数値構造と深い関係があることに気づきます。

コンバージョンは物議的な概念です。

それはバリューチェーンとトライアングルの数値構造をつなぐメカニズムです。それも表面には出てこないのだからわかりづらいと思われれます。

ナンバーオペレーションは数学的概念で成り立っているので多くのことが表面から見えないのです。ナンバーオペレーションの難しさはオペレーションの技術ではありません。数の謎を解き明かすことです。それが利益に結びつきます。不確定な未知の変化に賭けているのではないのです。だから、それが事業として成り立つのは確実な"fat"を取る方法が存在するからです。

実際のところ、私のチームのメンバーはマネーについて知識はほとんどありません。経済学も経営学の知識もなく米国のリベラルアーツカレッジで純粋に数学や物理学の学問を修めた連中です。マネーの経験と言え、海外旅行時の通貨の両替と米国内での銀行預金だけです。米国株は言うまでもなく米国の財務証券(米国債)さえ買ったことがありません。しかし、そんな仲間が頼もしくも初年度(2008年にチームを結成して本格的にオペレーションを開始したのは2009年)から驚くべき成績をあげその後も快進撃を続けてました。チームを結成した2008年は今でも記憶に新しい「リーマンショック」の出来事があった年でした。

そんな私たちは今でも数や数の構造について日々新しいことを発見しています。

過去のオペレーションの記録と数値/数値構造に照らし合わせて様々な角度から解析を行っています。トライアングル/バリューチェーンの構造とそれぞれのハンドとの関連性について「なるほどこうなっていたのか！」という驚きと発見が次々と出てきます。

→ 複雑に絡みあった数学をひとつひとつほいでいくとオペレーションそのものの本質が具えるように可.